

さよならのプリズム

命に寄り添って

< 5 >

らしく一生懸命生きてきた。うちにいたいという時、やないか」って。

果が死だから。良い死をに飛んできてくれる医師 鎌田 僕は、最初に考

目指す必要はなく、良い があることが大事だ。 えが変わったのが二十代

生を生きていけば良い死 上野 これまでは、医 前半だった。脳卒中のお

はついてくる気がする。 療者や専門家の声は大き じいちゃんが退院する時

上野 その通りだと思 けれど、患者も高齢者 「助けてくれてありがと

う。死の瞬間が人生のク も障害者も声を出せなか う」って泣いて喜んでく

う。ライマックスではないん ったし、出しても届かな れたのに、一週間後に会

だから。それまでの毎日 かった。当事者ももっと たら「殺してくれりゃ

のQOLが高かったらいい こう思う、こうしてほし 良かった」って言われた。

鎌田 がん対策基本法 いて言えるようになっ 彼にとって生きることは

ができて、がん治療にか いて、対等な関係になら 農業だった。家に帰って

脳卒中でまひが残 野良に出たら、つえを突 いて歩いて

も、かがみ こんで草取

りほできない。僕は彼の 退院後の生活や生きがい

には一切配慮せず、ただ 「助かって良かったね」

って肩をたたいて帰した んだって気付いたんで

す。 一人の患者の声が医師

の考え方を変える可能性 もある。特に上野千鶴子

が要介護になるのが楽し が声を出せば。

みなんです。「言うたら 〓おわり〓

幸せな最期とはー 鎌田實氏と上野千鶴子氏対談 ①

当事者は声出そう 上野氏

鎌田氏 良い死を目指すな

を迎えたい。もう一つは、 今までやってきたことを ぶん投げて暮らしを変え たい。前者の方が幸せ度 は高い。今のわたしは後 者だから、まだ死にたく ない(笑)。昨日のよ うに今日も生きている 日々を、死ぬ直前まで維 持できればQOL(生活 の質)は高い。

鎌田 僕は誰かがいな て「生活サポートチーム」 は、例えば脳卒中患者の

いと生きていけないけ みたいなものができれ ば、わたしも安心して一

つらさも配慮できるよう になり、医療全体が優し

くなくなるんじゃないか。

鎌田 老いも死も逃げ ても必ずやってくる。逃 大事なのは選択できる

こと。在宅医療は大きな 武器だけど、介護地獄み

たになっちゃう家もある から、特別養護老人ホ

うケア付きアパート さぎよく介護を受けた たいに

は、一角に飲み屋さんが あり、死ぬのを周りの人間

に角に飲み屋さんが あり、死ぬのを周りの人間

階には一般のOLさんが になって思う。ネガティブ

に住んでいたりして、いい にとらえなくていい。死 とかいろいろあって、選

